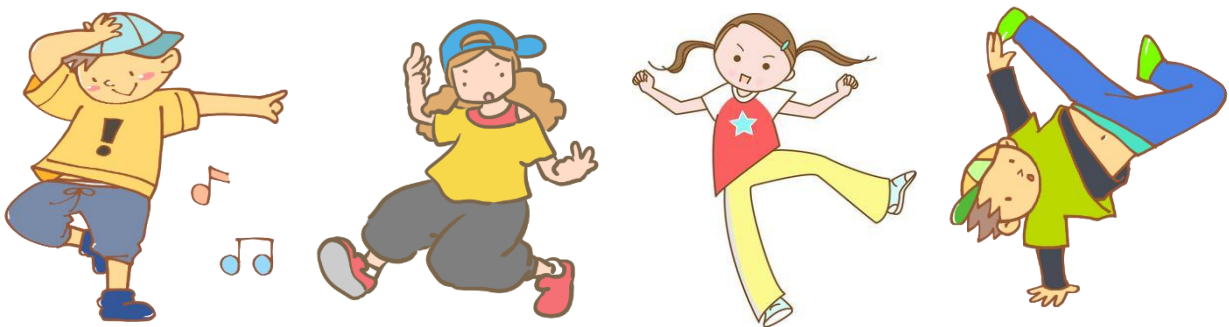


## 第5回 桜の森公園春まつりを中止します コロナ収束の見通しが立たず、残念ですが 新しい取り組みを来年に生かします

3月26日に開催する予定の「第5回 桜の森公園春まつり ～広がれ平和の輪～」は中止します。オミクロン株によるコロナ第6波が異常に長引き、安心して開く見通しが立たないためです。今回は公園周辺の方々とともに祭りを盛り上げる新しい試みを準備してきました。大変残念ですが、来年にきちんと引き継ぎたいと思います。

春まつり実行委員会は12月7日、1月11日、2月18日の3回開きましたが、会場は旭が丘公民館にしました。初回は館長さんも顔を出してくれ、同公民館の教室で学んでいるキッズダンスの春まつり参加につながりました。メンバーは約30人。オープニングに踊ってもらったつもりでした。



実行委員会には今回から鈴鹿医療科学大学の吹奏楽部とダンス部が入りました。これまではオープニング演奏やライブに出演してもらいましたが、公園隣の白子キャンパスは鈴鹿海軍航空隊の本館があったところ。大学学生課の了解を得て部長さんらが実行委員会に参加してくれました。また、学生課にお願いして当日イベントの学生ボランティアも募集してくれる手はずでした。

第5回はキッズダンスのオープニングのあと

- ①巨大格納庫があった場所などをめぐるタイムトラベルウォーク
- ②鈴鹿医療科学大学の吹奏楽とダンス、三重大大学のアカペラ、地元ミュージシャンの演奏
- ③紙飛行機、竹とんぼ、ぐにゃぐにゃ凧などの「空を飛ぶ子どもの遊び」
- ④戦争遺跡写真パネルの展示
- ⑤飲食屋台村

のメニューでした。来年の第6回もほぼこのメニューで開催する予定です。コロナが収まって安心して楽しめる祭りになることを祈ります。

(実行委員長・竹内 宏行)

### 鈴鹿市の戦争遺跡紹介③

## 鈴鹿海軍航空隊の格納庫（東旭が丘）

鈴鹿海軍航空隊の格納庫は3棟残っていましたが、惜しくも2011年の春に壊されました。壊している最中に東日本大震災が起こったのも鮮烈な思い出です。

すでに存在しない戦争遺跡ですが、鈴鹿市誕生を物語る象徴でした。私たちの会も、この格納庫を平和ミュージアムにすることを目ざして結成されたことは、あまり知られていません。

鈴鹿市の戦争遺跡のシンボルであった格納庫の誕生から消滅、そしてこれからの展望をまとめてみます。



ありし日の3棟の格納庫。左から第3格納庫、第4格納庫、第5格納庫。 2009. 3.21.

### ○鈴鹿海軍航空隊と鈴鹿市誕生

1938(昭和13)年に鈴鹿海軍航空隊が開隊します。鈴鹿市域で最初にできた軍事施設です。その頃、鈴鹿郡神戸町・玉垣村・白子町に囲まれた丘陵地に、広大な飛行場が初めて造られた時、近くの住民はどんな思いをもったのでしょうか。

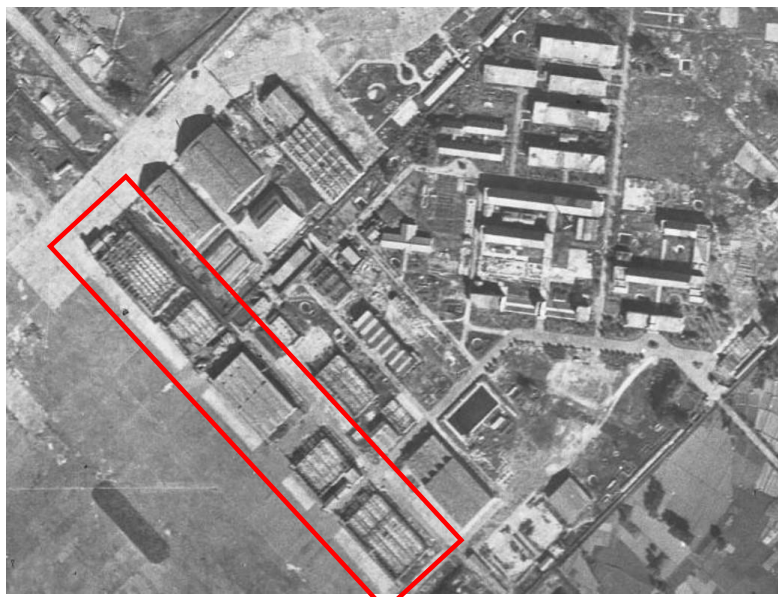
続いて1941年にはその北側に三菱重工業と第二海軍航空廠、1942年には第二鈴鹿海軍航空隊、1943年には西側に鈴鹿海軍工廠など、軍事施設が周囲に造られます。これらの施設は海軍の飛行機部品工場や組立工場、鈴鹿海軍航空隊があったからこそ造られたものです。そして、1942年には鈴鹿海軍工廠の建設主任によって鈴鹿市が誕生します。鈴鹿海軍航空隊は鈴鹿市誕生の端緒になったと言えます。

### ○5棟あった格納庫

鈴鹿海軍航空隊の格納庫は5棟ありました。第1・第3・第5格納庫が幅76mで、第2・第4格納庫が幅38mでした。つまり第2・第4格納庫は半分の大きさで、格納庫は大きいのと小さいのが交互に並んでいました(右写真)。

戦後間もなく、第1・第2格納庫は解体され、現在は鈴鹿高専の敷地になっています。

第2格納庫は、現在近鉄塩浜駅で第4検車庫として活用され、ほぼ旧状を留めています。塩浜駅の一般公開日には見学することもできます。また、第1格納庫も舞鶴に移築されているという情報もありますが、詳細は不明です。



5棟の格納庫。上から第1、第2(小)、第3、第4(小)、第5格納庫。

1947.11. 4.米軍撮影

## ○格納庫の構造

格納庫の内部に入ると、その巨大さと鉄骨構造のすごさに目を奪われました。

海軍の飛行機を入れる建物なので、内部に柱がありません。巨大な屋根を支える鉄骨の組み方は、近代の鉄製橋脚の構造に共通すると指摘されています。鉄骨は巨大なビスで接合されていて、この技術は現在ではほとんど残っていないようなので、その意味でも貴重な構造物でした。鉄骨には八幡製鉄所のマークがついているものもありました。



第3格納庫の内部。 2011. 2.12.

大きな格納庫（第1・3・5）には10枚、小さな格納庫（第2・4）には6枚の扉がついています。扉を早く開けるためにそれぞれの扉にレールがついているので一斉に開けることができます。扉は左右に開くので1本のレールに2枚の扉が乗ります。なので大きな格納庫には5本、小さな格納庫には3本のレールがついています。

巨大で重い扉は動かすと止めるのは難しく、一斉に勢いよく開閉するのは危険な作業で、扉を閉めていた時に親指を挟まれてちぎれそうになったという証言も残っています。



格納庫の扉。高さは人の身長4倍あります。 2011. 2.12. 第4格納庫で撮影



扉用のレール。扉が10枚なのでレールは5本。  
2011. 2.12. 第3格納庫

## ○戦後も活用された格納庫

第3～5格納庫は戦後も残り、戦後もいろいろなことに使われました。

1949年には鈴鹿海軍航空隊跡地に電電公社「鈴鹿電気通信学園研修センター」が開設され、格納庫は作業所や倉庫、時には運動クラブの屋内練習場として使われました。

1959年の伊勢湾台風の時には長島町（現・桑名市）や木曾岬村で被災された方の避難所として利用されています。

1962年には国立鈴鹿高専の第1回入学式に使われ、翌年は同校の入学試験の集合場所としても使われたそうです。その時は雨で、格納庫から隣接する高専へ50人ずつ入って行きましたが、格納庫の中は雨漏りをしていたという証言があります。

面白いのは、1951年から52年頃に格納庫の中で「NHK のど自慢」の収録がされたこともあったそうです。

特筆したいのは、2004年に映画『埋もれ木』（小栗康平監督）のロケ地として使われたことで、格納庫の中に町並みや橋、教室などの見事なセットが作られています。屋内でこれだけの大型セットを作れる環境はあまりなく、映画関係者からも格納庫は「国内有数の映画撮影施設になる」と注目されていました。

## ○再開発と格納庫の破壊

私たち「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」は、この格納庫を平和ミュージアムにすることを目ざして2008年4月に準備会が発足しました。

ところが、準備会を立ち上げて間もなく、格納庫を含むNTT所有地の再開発計画があることがわかり、市民の会の活動は格納庫保存運動に比重が置かれていきました。鈴鹿市とNTT西日本への格納庫保存の要望書の提出、現地見学会や学習会などの開催、市会議員への働きかけ、11478人も保存要望署名の提出、300人が集まった「格納庫保存を考える市民シンポジウム」の開催など、活発な保存運動を行いました。

鈴鹿市・NTT西日本・独立行政法人都市再生機構（UR）の三者による「防災公園街区整備事業」の見直しは行われませんでした。NTT 西日本から「開発計画の再考は現段階で無理だが、第4格納庫を移築保存できるように部材を解体し保管する」という提案が行われ、私たちが苦渋の選択で第3・第5格納庫の撤去に応じ、2011年1月21日から格納庫の撤去工事が始まりました。

第4格納庫は移築ができる状態で解体保管されました。



破壊される第3格納庫 2011. 3. 7.

た。小さい方の格納庫でしたが、部材は膨大な量になり、総重量は130トンもありました。

そして、移築だけでも三億円、格納庫内部を平和資料館などに活用するなら補強などを含めて数億円かかることがわかり、鈴鹿市は移築保存を拒否。私たちが断念せざるを得ませんでした。

2011年9月に、市民の会は格納庫移築断念と平和資料館設立という方針転換の文書を市長と市議会議長に提出しました。こうして格納庫は3棟とも消滅しました。



保管されていた第4格納庫の部材。 2011. 5.31.

## ○部材の保存

格納庫破壊に先立ち、私たちは第3・第5格納庫の一部部材の保存を要望し、リストアップしました。その後、第4格納庫の移築断念・放棄が決まってから第4格納庫部材の一部を選んで保存しました。NTT 西日本は要望に誠実に応え、鈴鹿市も市の施設への一時保管をして下さいました。

市民の会は、部材を展示するための平和ミュージアムや平和資料室の開設を市に要望してきましたが、実現するには難しい状況が続いています。

市の施設での保管期限が迫る中、会員の森田英治さんのご厚意で格納庫部材を一時保管して頂けることになり、2018年3月11日に部材を森田さんの倉庫に移動・仮展示しました。2021年12月には部材の詳細調査をおこない、部材台帳や説明板作りを継続しています。貴重な部材を多くの方に紹介できるように環境づくりをしていきたいです。



森田さんの倉庫で保管されている部材。 2018. 3.11.

## ○桜の森公園春まつりと「タイムトラベルウォーク」

2021年の「桜の森公園春まつり」で初めて「タイムトラベルウォーク」を行いました。

市民の会が、皆さんからの募金を元に2015年2月28日に建てたモニュメント「地・天」（三村力さん製作）や、移築された航空隊正門と番兵塔を見学し、今は団地や公園になっている所に、かつて鈴鹿海軍航空隊があり、巨大な格納庫などがあったことを歩いて追体験するものです。

その下見に行った時、航空隊の道路や格納庫の敷地が現在の区画とほぼ一致することに驚きました。



タイムトラベルウォークとモニュメント「地・天」。 2021. 4. 3.

格納庫のあった所は団地になっていますが、下の図のように道路などを目印にすると場所や大きさを実感することができます。



## ○今後に向けて

私たちが大切に保管している格納庫部材は、かつての格納庫を具体的に伝えてくれるものです。これらを収納し、合わせて鈴鹿市や三重県での戦争を知り、平和を学べるミュージアムの開設を目指しています。愛知・岐阜・長野・滋賀・京都・静岡など近県のように三重にも平和を学べる場を早く作りたいです。

格納庫はなくなってしまいましたが、格納庫が伝えようとしていた平和への思いは、今も私たちの中に生きています。

(文責 岩脇 彰)



左から第3・第4・第5格納庫 2009. 3.21.

# おらせ

## いつでもどこでも個別に対応します ～戦争遺跡見学会～

毎年夏休みに親子戦争遺跡見学会を企画してきましたが、コロナ対策を考えて個別に戦争遺跡の案内をいたします。

- ① 徒歩または車をご用意ください。
- ② ご希望の戦争遺跡、集合する時間と場所を決めます。
- ③ 当会のガイドがご案内します。

参加される人数は何人でも構いません。お一人でも大丈夫です。学校やコミュニティ単位の学習にも対応します。

ご都合のよい日時でご相談下さい。ただし、当会のガイドが対応できない日もありますので、ご了承下さい。日程が重なったときは先着順に対応いたします。

申し込みは竹内（090-2772-1476 [ta818hi@mecha.ne.jp](mailto:ta818hi@mecha.ne.jp)）まで



### 5月21日に総会を開きます 記念講演は 藤田明さん

「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」の新年度の総会は5月21日（土）午後2時から、ジェフリーすすかホール（鈴鹿市神戸2-15-18、☎381-3113）で開きます。コロナ禍で2年続けて書類による事後承認の形となりましたが、第14回になる今回はぜひ会員のみなさまと顔を合わせた総会になればと念じております。

第1部は2021年度の活動報告、会計報告、会計監査報告、2022年度の活動計画と予算を審議してもらい、役員を選出を行います。

第2部は三重文学協会会長、藤田明さんの記念講演です。こちらも2年続きで見送られましたが、ぜひ実現できたらと思います。

藤田さんは1933年東京生まれ。東京大空襲、そして疎開先の津市でも空襲の体験をされました。長く高校で国語教師を務め、のち高田短大でも教鞭をとられました。著書に「三重・文学を歩く」「平野の思想 小津安二郎私論」など。



発行
代表

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

竹内 宏行・中森 成行

〒510-0254 鈴鹿市寺家 1-2-47

電話 059-388-6508

Mail [ta818hi@mecha.ne.jp](mailto:ta818hi@mecha.ne.jp)

